



ICTを効果的に活用した学習活動の充実②



ICTを活用する学習場面、

- ①「児童生徒が学級全体で一斉に行う学び」
- ②「児童生徒一人一人の学習の状況に応じた個別の学び」
- ③「児童生徒同士が教え合い学び合う協働的な学び」

の中から、今回は、②「児童生徒一人一人の学習の状況に応じた個別の学び」について紹介します！

②児童生徒一人一人の学習の状況に応じた個別の学び（個に応じた学習）



〈活用例〉

タブレット端末のアプリケーションやオンラインのドリル教材等を活用し、児童生徒の興味・関心に応じた課題に取り組む学習や理解の状況に応じた学習を行います。

〈期待される効果〉

自分で課題を見付け、解決に向け取り組むことや、自分に合ったペースで学習することにより、主体的に学習に取り組む態度を育み、基礎的・基本的な知識や技能を定着させることができます。

【実際の授業では…】

「音楽」の授業では



タブレット端末の録音や録画のアプリケーションを使って、自分の演奏を記録し、演奏のよいところを見付けたり、技能面の課題に気付いたりすることで、よりよい音楽表現の方法を身に付けることができます。

「算数・数学」の授業では



授業の後半などに、タブレット端末でオンラインのドリル教材（eライブラリ）の計算問題に取り組み、苦手な問題を繰り返し解いたり、より難しい問題に挑戦したりすることで、学習内容の定着を図ることができます。

参考資料：「教育の情報化に関する手引（追補版）令和2年6月」（文部科学省）

旭川市のホームページに、「旭川市GIGAスクール通信」を掲載しています。右のQRコードから掲載ページに移動することができます。

【URL：<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/218/251/257/d072491.html>】

